郷田小学校説明会　（R8.9.18　14:40～）

参加者30人：保護者25人（うち未就学児保護者４人）、その他５人

	ご質問・ご質問	回　答
1	現在、郷田小学校に子どもが通っているが、渡津小学校との統合後、通学方法はどのように考えているのか。	郷田小学校区から渡津小学校へ徒歩で通学する場合、江の川を渡る必要があり、特に低学年について安全面に懸念があることから、基本的には全ての児童をスクールバスで送迎することを考えています。
2	来年度入学する保護者。統合の主な目的は、複式学級の発生を防止・解消することと理解してよいか。	複式学級は、１・２年生の合計が８人以下、３年生以上は隣接する２学年の合計が16人以下の場合に、複数学年を１学級・１人の担任で指導する制度です。児童には異学年で学ぶ負担があり、教員にも複数学年分の授業準備が必要となるため、児童・教員双方の負担を考え、複式学級を避けたいと考えています。あわせて、児童が安全・安心に学ぶため、校舎の老朽化も統合理由の一つです。
3	統合は避けられないと感じているが、統合による学力、友人関係、学習意欲等の改善事例やデータ、メリット・デメリットを示してもらえると、保護者として納得して後押しできると思う。	統合・廃校にはマイナスのイメージもありますが、郷田小と渡津小の特色や教育活動の良さを組み合わせ、相乗効果によって新しい統合校をより良い学校にしたいと考えています。統合前後で学力、友人関係、学習意欲等がどのようにプラスに変化するか、継続して調査・検証していきたいと考えています。
4	制服・体操服は安価ではなく、買い替え時期に迷う。統合後に制服・体操服をどうするのか、保護者負担が増えないよう早めに方針を示してほしい。	基本計画案が確定した翌月を目途に、地域、保護者・PTA、学校、教育委員会等で構成する統合準備委員会を立ち上げ、制服・体操服を含む統合に向けての準備について協議します。過去の事例では、既に持っている旧学校の制服・体操服を当面使用し、サイズ変更や新規購入の際に新しい学校のものへ替える対応例があります。新しい制服・体操服を指定するか、自由とするかも準備委員会で決定します。郷田小学校には制服がなく渡津小学校には制服があるため、特殊なケースとなりますが、統合準備委員会で調整される予定です。
5	通学、制服・体操服等について、統合準備委員会で何をいつまでに決定するのか、保護者が見通しを持てるよう統合までの年間スケジュールを可視化して共有してほしい。	統合準備委員会の立ち上げと同時に、何月頃に何を協議・決定するのか、統合後の予定も含めたタイムスケジュールを早めに作成し、可視化して共有したいと考えています。
6	郷田小学校は過去の学校統合によって、松平小学校から受け継がれてきた地域の歴史や伝統がある。これらを継承しながらも、従来の歴史やカリキュラムにとらわれず、新しい学校をつくってほしい。	統合後は両校の校区を合わせた広い校区となります。各校・地域で行われてきた教育活動や、ふるさと・キャリア教育を全て同じ形で続けることは困難と思われますが、取捨選択しながら、教育課程にどのように組み込むか慎重に検討します。
7	郷田小学校区と高角小学校区の境界付近では、近隣でも通学先が分かれている。指定校変更の許可基準は具体的にどのような内容で、どのように審査されているのか。	指定校変更の許可基準は江津市教育委員会ホームページに掲載しています。原則は居住地で指定校が決まりますが、指定校変更の申請があった場合は、毎月の教育委員会会議で申請理由を一人ずつ審査します。主な例は、共働きで下校後の見守りができないため祖父母宅のある校区へ通う場合、友人関係のトラブル等で別の学校を希望する場合、引っ越しにより校区変更後も現在の学校へ継続して通学を希望する場合です。
8	統合後にスクールバスを運行する場合、郷田小学校区の本町側・駅前側など、エリアごとに複数台を運行するのか、1台で全体を回るのか。	現時点では具体的な検討は行っていませんが、少なくともバスをもう１台確保する必要があると考えています。運行台数やルートは、統合時点の児童の居住地、分布状況を確認したうえで検討します。
9	基本計画案は、誰が、いつ、どのような過程で決定したのか。検討委員会は何回開催され、委員は誰がどのような基準で決めたのか。	基本計画案は、教育委員会事務局の職員が協議し、2026年６月中に事務局案として作成しました。有識者の検討委員会は現在６回目まで終了し、来月初旬に７回目を予定しています。委員は教育委員会事務局が選定し、2025年秋頃に依頼・内諾を得て委嘱し、第1回検討委員会は2025年12月に開催しています。
10	検討委員会のメンバーや役割は公開できるか。	委員は、小学校・中学校の校長会長、各地区の学校運営協議会の代表者、保護者・市Ｐ連の会長・副会長等で構成し、アドバイザーとして島根県立大学の教授が参加しています。検討委員会は計画案を作成する組織ではなく、教育委員会が作成した案について諮問を受け、意見・方針を答申する組織です。答申内容によっては計画案を修正することになります。計画案の作成前には、児童生徒、保護者、地域等を対象としたアンケートも実施し、その結果に基づいて作成しています。

	ご質問・ご質問	回　答
11	今回の計画は、将来の中部地区の３校統合や新校舎建設にどのようにつながるのか。計画期間と着手・完成の見通しを知りたい。	第３次計画は10年間の計画で、まず郷田小学校と渡津小学校を統合し、その期間内に高角小学校を含む中部地区３校の統合・新校舎整備に向けた基本計画や実施計画へ着手する案としています。10年以内の校舎完成までを定めたものではなく、基本計画、実施設計、造成、校舎建設には着手後おおむね５年程度を要する見込みである。
12	学校統合や新校舎整備だけでなく、現在の子どもたちが高校・大学・就職後に江津市へ帰りたいと思えるまちづくりが必要である。将来の子どもの数や地域の維持を見据え、学校再編の根底に具体的な10年のまちづくりのビジョンに基づいて、市・地域・住民が一体となって取り組む必要がある。	―
	統合時期（令和10年４月）について	
13	急な環境変化によるストレス、不登校やいじめを防ぐため、低学年も含めて早い段階から合同授業や給食、学校・学年行事等を実施し、渡津小学校の児童と継続的に交流する必要がある。	年内に計画が決まった場合、統合まで約１年３か月しかないので、両校の教職員と統合準備委員会で合同の学校行事、学年行事、学習活動を検討し、計画的・継続的に交流して、令和10年４月に円滑に統合できるよう準備します。
14	子どもは郷田小学校が大好きで統合を嫌がっており、統合は仕方ない部分もあるが、個人的には反対。今は案で決定ではないようだが、計画がいつ正式決定するのか、保護者・子どもへいつどのように説明するのか、渡津小学校との交流をどのように行うのかを明確にしてほしい。	―
15	体育館やトイレ等の設備が古いため、子どもたちには生活しやすい校舎がよいという思いもある。一方、郷田小学校は、送迎、駐車場、緊急時の対応がしやすいが、渡津小学校では現実的に対応できるのか。高角小学校も含めてそういうことを検討するには１年は短いと思う。	高角小学校との統合については、教育委員会としては考えておりません。高角小学校は、当面、複式学級が発生する可能性が低いですが、郷田小学校と渡津小学校は近い将来に複式学級が発生する可能性があるため、複式学級の予防という基本方針から、両校の統合案を示しているところです。
16	在校生や保護者に思い出のある場所であり、言いにくい意見だが、最初から渡津小学校へ通える令和10年４月の統合が家庭としてはありがたい。（令和10年４月に入学予定の保護者）	―
17	統合時期はどこかで決めなければ進まない。重要なのは期間の長さだけでなく、子どもが納得して統合を楽しみにできるよう、統合までをどう過ごすかである。短時間の合同授業だけでは十分な関係を築けないため、１週間単位で互いの学校で生活し、一緒に給食を食べるなど、そういう経験ができるなら１年でもいいと思う。１年で難しい場合は期間を延ばし、子どもたちが本当に納得して渡津に行くのがベストだと思う。時期を決めたうえで統合までの過ごし方を具体的に示してほしい。	―
18	複式学級の解消・予防や教育環境の改善が目的であれば、統合を決定した後は可能な限り早く実施した方がよい。現在の施設環境には課題があり、環境が変わることで得られるメリットも多い。人数が増えれば、授業で多様な意見に触れ、自分の考えを深められる。大人数に馴染めない可能性等のデメリットだけを理由に先送りせず、迅速に対応してほしい。	―